

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS (仮称)岡部公民館建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境							0.40			3.0
1 音環境						3.0	0.15			3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0		
1.2 遮音						3.0	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.98	3.0		
2 界壁遮音性能						3.0	0.02	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0		
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0		
2 温熱環境						2.9	0.35			2.9
2.1 室温制御						3.6	0.50			
1 室温						3.0	0.38	3.0		
2 外皮性能		外壁・屋根: 硬質発泡ウレタン厚20、ガラス: 複層ガラス				4.0	0.25	3.0		
3 ゾーン別制御性		ゾーン別制御を行っている。				4.0	0.38			
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0		
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0		
3 光・視環境						3.3	0.25			3.3
3.1 昼光利用						4.2	0.30			
1 昼光率		図書室は二面採光で床より天井までの開口部				5.0	0.60	3.0		
2 方位別開口							-	3.0		
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策						3.0	0.02			
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0		
3.3 照度						3.0	0.20	3.0		
3.4 照明制御						3.0	0.49	3.0		
4 空気質環境						3.0	0.25			3.0
4.1 発生源対策						3.0	0.50			
1 化学汚染物質		告示対象外、F4☆建材など、VOC放出量の少ない建材を採用				3.0	1.00	3.0		
4.2 換気						3.0	0.30			
1 換気量						3.0	0.33	3.0		
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0		
4.3 運用管理						3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御						3.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			3.6
1 機能性						3.6	0.40			3.6
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40			
1 広さ・収納性						3.0	0.02	3.0		
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.02	3.0		
3 バリアフリー計画						3.0	0.97			
1.2 心理性・快適性						4.0	0.30			
1 広さ感・景観		居室の天井高さ2.7mを確保。床から天井までのサッシを採用。また、屋根段差を利用した高窓の設置。				4.0	0.02	3.0		
2 リフレッシュスペース		職員休憩スペースとして、事務スペース内、及び共用のラウンジを利用可能としている。また、冷水器、自動販売機等も設置				5.0	0.02			
3 内装計画		①エントランスホール等に天井に木製ルーバー使い、勾配屋根の形状を生かした自然光が入る空間。②エントランス、共用廊下の床は、清掃維持を考慮し、磁器質タイル。事務室、会議室は塩ビシート、塩ビタイルの採用。				4.0	0.97			
1.3 維持管理						4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		①内壁: 石膏ボードにEP-G塗装、トイレには化粧ケイカル板を使用。②床: エントランス、共用廊下の床は、清掃維持を考慮し、磁器質タイル。事務室、会議室、図書館は塩ビシート、塩ビタイルの採用。③トイレ内の床は、ビニル床シート(溶接工法)、消臭タイプを採用。④床材は、清掃のし易さを考慮し、磁器質タイル、ビニル系床材を採用。壁面に手が届かない凹凸を極力無くした設計。⑤南面するメイン玄関の風除室の出入り口をL型に配置し、突風、砂塵の予防。⑥共用部と各室の床材は、脊槽を設け区分。⑦外周部に屋根庇を設置。アルミサッシは外付けとし、排水性を高めたタイプを採用。⑧外部金属は、ステンレス製、あるいは溶融亜鉛メッキを施し防錆品の採用。				5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.5	0.30			3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.8	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		耐震構造(25%増)				4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.3	0.30			

	1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数 20年以上を採用。内部床:磁器質タイル(65年)、カーペット(20年)、ビニル床シート、タイル(20年)。壁:複層仕上げ塗材(20年)、ビニルクロス(20年)、メラミン化粧板(20年)。天井:岩綿吸音ボード(30年)、ビニルクロス(30年)。内部建具:アルミ(40年)銅製(30年)、木製(30年)	5.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		4.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	2.4 信頼性			3.4	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	重要度に応じた系統分けを行い、マルチタイプの採用により、系統ごとの運転と負荷容量を下げた運転も可能。	4.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	節水型便器の採用。浄化槽を設けているため、一時貯留が可能。受水槽は2槽式を採用、また、非常用給水弁の設置。	4.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	①光ケーブル、携帯電話等の通信の多様化を図っている。③地下室は無い。	3.0	0.20	-	-	
					-	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.9	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		基準階高:3.8m。平屋形式で勾配屋根により天井内の余裕あり。	4.0	0.03	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		整形な形状。壁長さ比率=0.08	5.0	0.97	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		PSの分散化	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		OAフロアの採用	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		I 1)冬の季節風(赤城おろし・北西)に対し、建物を北側に寄せ、建物自体を防風対策とし、敷地外周部の植栽で敷地内の生物環境の保全を行う。 II 1)敷地は現状レベルを生かし、造成等の切盛り土は極力行わない。また、駐車場、歩道に緑化ブロックを使用し、従来からの雨水の地下浸透を損なわない計画としている。 III 1)外構緑化指数=33.52%。IV.樹種の選定は、日照条件:敷地外周部に多くの植栽を行い、陽樹・陰樹の適切な配置。成長空間:植栽樹の幅は十分に確保。(高木の最小幅は1m)両サイドは道路・敷地内通路により樹形を阻害することはない。生育基盤:地被類は場内良質土による客土を整備。環境圧:北西の空っ風に備えて樹種を選定。V.植樹帯に散水設備を設置。巡回監視、樹木の剪定、草刈りの年間計画を策定。	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		1)田園地帯に馴染む「軒の水平ライン」と遠くに広がる山並みに呼応する「勾配屋根」による周辺の町並みな風景にバランス良く調和させている。 2)植栽により沿道の緑の連続性を確保し、道路沿いのコスモスを際立させるように修景にも寄与している。 5)①視点場:沿道からの視点。②理由:敷地は「岡部コスモス祭り」のメイン会場となることから。③景観への配慮:岡部コスモス祭りでは、駐車場がイベントスペース、建物はコスモス祭りではサポート及びサービスを行う。沿道のコスモスから遠方の山々まで繋がる自然の要素の連続性を壊さない配慮を行っている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2)深谷のレンガ調タイルを外壁柱型に使用。 3)大屋根による庇は、公民館へのアプローチ路となっている。 4)庇空間は、雨天・災害時にも活動が可能な公民館広場となる。 5)玄関周りは掲揚ポール、花壇(プランター)を設けることで地域の方が親しみやすい公共スペースをつくる。玄関・事務室・図書室に面した庇空間は、風や光が通り抜ける開放的な空間でアプローチ路として自然を感じる中間領域を形成している。 6)敷地外周部には外灯を設け、夜間の安全を確保。遊歩道も死角のない見通しの良い空間とすることで防犯性に配慮。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		建物外周部の断熱性の向上により、BRI _m =0.71	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		トップライト、ハイサイド窓を設置	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.85	2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水		節水便器、擬音付便器の設置。	1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		パーティクルボードを家具の芯材に利用	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		FSC森林認証等の国際認証を取得した業者の製品を採用。また、県産材の多用。	4.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		1.内部間仕切り壁に乾式壁の採用。2.壁:躯体+LGS+仕上げ材、事務室床:OAフロアの採用。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2を11%削減	3.5	0.33	-	-	3.5

2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場 1) 玄関に近い庇の下に設置。一般利用者用として幅24mを確保。駐車場 1) 200台を確保(車いす利用者用も含む)。周辺道路に渋滞を発生させないために、駐車場の出入口を幹線道路ではなく側道に設けている。また、内部でもスムーズに出入りができるように、東西に2か所、対面して配置している。2) 公用車用の駐車スペースを7台分設けている。また、荷捌き用のスペースは屋根付きとしている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	建物は勾配のある屋根として、低層となるように留意している。法による日影図(3H/5H)は、敷地の内部に納まる。	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	①目的に応じた照度設定とする。②照明は下方をメインとし、必要以上に広げない。③照明器具はLEDを採用。④色彩に留意し、近隣に配慮した設置とする。⑤タイマー等の自動設定を行い、簡便化と無駄の低減。⑥防犯に留意した照明配置とする。	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	